

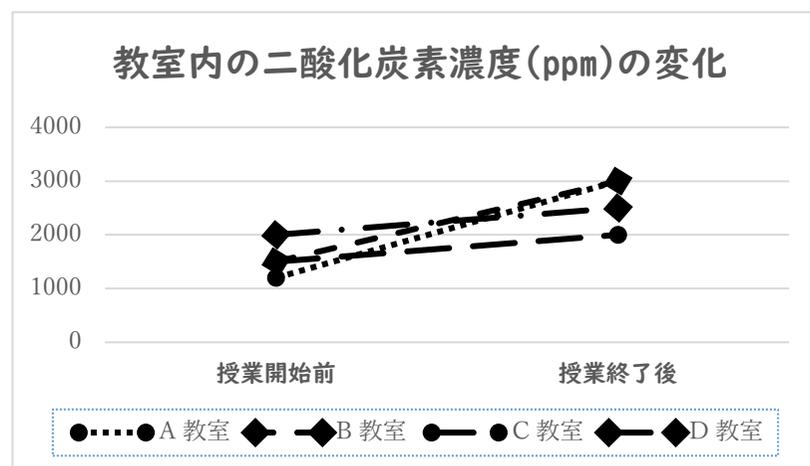


効率的に換気をしよう～新型コロナ等感染症対策＋集中力強化のために～

寒さが厳しくなり、換気しづらい季節になりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止対策や、冬期に流行しやすいかぜやインフルエンザ予防のために、換気は欠かせません。また換気をすることで二酸化炭素濃度を適正に保ち、集中しやすい学習環境に整えることができます。換気のポイントを押さえて、教室や自宅の空気を効率良く入れ替えましょう。

昨年度の空気検査結果

下のグラフは、昨年度1月に行った教室の空気検査（CO₂濃度）の結果です。CO₂濃度は、室内の空気の汚れの指標となります。数値が1500ppmを超えると換気が不十分であり、感染症にかかりやすいだけでなく、思考力・判断力の低下や、眠気も生じます。休み時間の段階でCO₂濃度は基準値を超えており、密閉した室内でCO₂濃度はどんどん増加します。窓は常時少し開放し、休み時間は全ての窓を開放して、空気を入れ換えるよう実践しましょう。



換気のポイント

→風の通り道をつくる

- ☆2方向の窓を開放し、部屋の対角線上に風の通り道を作りましょう。温かい部屋では、空気が上に上がる性質があるため、出口側の窓は高いとより効果的です。
- ☆教室の窓は、常に外側と内側を少しだけ開けておきましょう。10cm程度でも効果があります。
- ☆1方向の窓しか開放できない部屋では、扇風機やサーキュレーターを使って、窓に向かって風を送ると、空気のよどみを解消して空気の流れを作ることが可能になります。



→寒さを和らげる換気

- ☆室内が暖まってから換気を開始すると、床や壁が暖まっているので寒さが和らぎます。
- ☆窓が2方向にある場合、風が吹き込む方向（外側）は狭く、風が出る方向（内側）は広くすると空気がうまく流れ、寒さの感じ方が和らぎます。
- 新型コロナウイルス感染症の流行拡大が続く今年は、常時換気を行う施設が多くなります。体温調節しやすいよう、防寒着や着脱可能なカイロなどをうまく活用しましょう。



高病原性鳥インフルエンザへの対応

お隣の香川県で、次々と高病原性鳥インフルエンザが確認されており、感染拡大を防ぐため国を挙げて対策がとられています。正確な情報に基づき冷静に対応しましょう。

- 野鳥になるべく近づかず、死亡した野鳥には手で触らないようにしましょう。
- 鶏肉や鶏卵を食べることによって人に感染することはありません。また、鳥インフルエンザは人に感染する可能性は極めて低いと考えられています。



健康診断結果について

冬休みが近づいてきました。自分の体のことが後回しになっている人はいませんか？健診結果の中で受診の勧めがあった人は、冬休みを利用しての受診をおすすめします。受験生の方も、試験や面接の直前にコンディションを崩すことのないよう、治療を受けて万全の体調で試験に臨みましょう。

